



新築木造住宅の基礎にひび割れが…… 慣用的な補強法の安易な採用も原因に

一級建築士 千賀 良作

このところ、新築木造住宅の基礎のひび割れに関する相談が続いています。新築直後にひび割れが相当数発見され、構造上の問題が疑われるケースです。基礎のひび割れ原因は様々ですが、構造上の瑕疵に起因していることも少なくありません。

最近の木造住宅の基礎は全面コンクリートのベタ基礎が主流です。2階建て以下の場合、基礎配筋の決定は構造計算にはよらず、住宅瑕疵担保責任保険の設計施工基準にある“ベタ基礎配筋表”に従って行われることがほとんどです。これは、基礎の立ち上がりで囲われた“スラブスパン”と呼ばれる部分の短辺方向の寸法によってベタ基礎スラブの配筋を決定するものです。この配筋表は、スラブスパンを囲う立ち上がりが連続していることを前提とし、人通口など立ち上がりが途切れて不連続となる部分には配筋補強などの適切な補強を行って連続しているとみなせるようにしなければなりません。

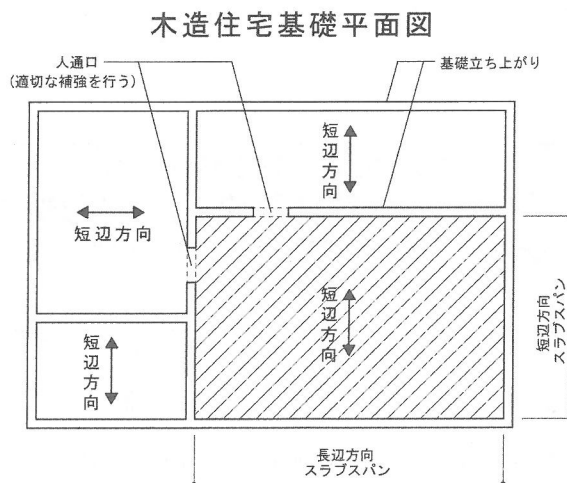
その場合の具体的な補強方法は設計者等の責任ある判断に委ねているのですが、力学的根拠を伴わない慣用的な補強方法を採用し、計算してみると補強不足となっていることがあります。この補強不足がベタ基礎スラブのひび割れの原因となることがあります。

思い込みで配筋不足を見落とす

設計者、施工者の多くは、住宅瑕疵担保責任保険に加入すると保険法人による基礎配筋検査が義務付けられているのだから、補強不足があれば検査時に指摘されるはず、と勝手に考えています。しかし、保険法人は具体的な配筋の

責任は設計者等にあるとの立場で、図面通りの配筋かどうかをチェックするだけ。結局、配筋不足があっても放置され、ひび割れが生じてから気付くこととなります。

基礎配筋に限らず構造強度が不足していると、震度6強以上の大地震時には構造へのダメージが大きくなり、地震後の補修では住み続けられなくなる可能性があります。一般的な仕様規定や慣行的手法に安易に従うのではなく、十分な注意を払って設計、施工に臨み、やむなく構造強度の不足が生じてしまった場合には速やかに補強を行わなければなりません。



木造住宅基礎平面図

ベタ基礎配筋表 (一般地)

荷重	短辺方向 スラブスパン (m/内法)	スラブ 厚 (mm)	短辺及び長辺方向 スラブの配筋 (mm)
重い住宅	3.0以下	t=150	D13@250【シングル】
	3.0を超え4.0以下	t=150	D13@150【シングル】
	4.0を超え5.0以下	t=200	D13@150【ダブル】
軽い住宅	3.0以下	t=150	D13@250【シングル】
	3.0を超え4.0以下	t=150	D13@200【シングル】
	4.0を超え5.0以下	t=200	D13@250【ダブル】

ティーたいむ

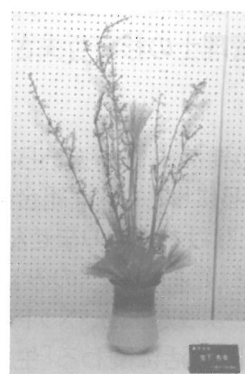
生け花



生命あるものを生かして飾る貴重な時間
枝、花の自己主張を生かし仕上げる楽しさ
—宮下幸子—

「生け花」は仏様に供える供花として生まれ、室町時代に「立花」(りっか)と呼ばれ、完成された型になります。江戸時代に入ると新しい生け花の様式として「生花」(せいか)が生まれ、訓読みの「いけばな」が使われるようになります。

生命(いのち)あるものを生かして飾る。生け花のお稽古で、同じ花材でいけても一人として同じ仕上がりはありません。



真っすぐな枝、曲がった枝、花の付き方、色、咲き具合、全部違います。曲がっている枝は、“曲がり具合を生かして”とつぶやいています。花は真っ正面ではなく少し斜めに入れます。花にも表と裏があ

り、裏向きには飾りません。花材は“美しく見えるようにいけてね”と言っています。

それぞれの花材が自然の中でどう咲いているのかを知り、江戸時代から受け継がれている「生命あるものを生かして飾る」という生け花の心。枝、花、ひとつひとつの自己主張を生かし、まとめ、仕上げていく。そんな時間はとても貴重です。

同じ花材でいけても、ふんわりやさしいもの、華やかに大らかに入っているもの、凛としたたずまいのもの、まとまりに欠けるもの、お稽古ではいろんな飾り方を学ぶ楽しさがあります。

暮らしの中で、庭の、ベランダの季節の花を飾る楽しさを味わってみてください。(寄稿、みやした・ゆきこ=建築ネットワークセンター事務局)

写真 上尾市で開催された生け花展に出品した作品。花材は麦、連翹(れんぎょう)、菜の花。花器は日本陶芸賞で大賞を受賞した井上英基氏の作品「黄昏」。

相続 お墓

「子どもたちのために残す」勉強会

相続手続き、遺言書の書き方、さらに葬式やお墓の相談を受けることが増えています。お悩みの方は迷わずご利用ください。専門家がわかりやすく説明します。

- 5/28 ④ 相続の仕方、遺言書の書き方 齊藤 悠紀子 (弁護士)
- 6/18 ④ 相続税と節税 坂村 武春 (税理士)
- 7/16 ④ 葬式、エンディングノート 宮本 武昌 (葬儀業者)
- 8/20 ④ 墓の購入、移動、供養の仕方 菊田 覺應 (真言宗僧侶)

会場 建築ネットワークセンター事務所
時間 午後5～7時
会費 会員無料、一般500円(全4回受講は1,500円)

講演会

認知症でも
安心、安全に暮らせる
まちづくりをめざして

認知症を正しく理解するために

日時 6月27日(土)
午後2時—4時30分

会場 大久保地域センター

講師 大泉生協病院、認知症看護認定看護師
芝崎 美千代

参加費 500円(新宿区民、障がい者は300円)

※参加申し込みは建築ネットワークセンター

【主催】 住まい・福祉・まちづくりネットワーク
(NPO法人建築ネットワークセンター内)
新宿区百人町1-20-3 505
Tel 03-5386-0608 (F)03-5386-1065

【後援】 (社)日本高齢期運動サポートセンター